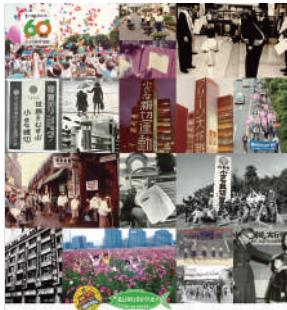


自分の“時代遅れ”的苦しみでも「60周年」を励みに!!

代表 鈴木恒夫



【表紙写真】

写真で振り返る60年の歴史

運動本部に保管されている活動写真の中から、60年の歴史を感じさせる写真を一部ご紹介します。長年わたり、全国各地で様々な「小さな親切」が受け継がれてきました。私たちはこれからも、思いやりの心を次世代につないでいきます。

銀座「ソニービル」で日本列島クリーン大作戦をPR

1982年、創立20周年を記念して「日本列島クリーン大作戦」を全国展開するにあたり、プレ活動として東京・銀座の清掃とパレードを行い、活動をPRしました。

クリーン大作戦には、当時会員加入していた三越を中心に、銀座にある企業や商店街なども協力してくださり、ソニービルの電光掲示板には「小さな親切運動」「クリーン大作戦」の文字が。銀座の代名詞的建物の一つでもあったソニービルは、2017年に建物が解体され、今では見ることができません。当時のレトロな雰囲気と相まって、貴重な一枚となりました。



「小さな親切」誌は、季刊発行

春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2023年8月1日発行 通巻531号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866 FAX.03-3263-3838
<https://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社
©無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。



恒きんが行く！

私

たちの「小さな親切」運動に関わりを持ってくださっている皆様方に、あらためて「創立60周年」への感謝の誠を捧げさせていただきます。「日本の美風」の深まりと広まりにいっそう努めて参りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

運動がスタートした昭和38(1963)年、私は早大を出て、社長がこの運動の提唱者の一人だった毎日新聞社に記者として入社した。茅誠司東大総長の提言の背後には、太平洋戦争の反省と「60年日米安保闘争」に伴う社会不安への思いがあり、「二度と戦争だけは起こさせない」という願いから新聞記者を目指していた私にとって、「小さな親切」運動は心の支えでもあった。

それにしても、この60年間の社会の変化は、誰が予想できただろう。例えば、デジタル化の進行。ほとんどの方が、信じがたいと思われることをひとつ。私が新人記者のころ、原稿はすべてワラ半紙を四つに切った紙に、1行5字を6行か、1行6字を5行に鉛筆で記事を書いたものだった。当時の新聞は1行が15字だから、一枚の原稿は2行分。紙の枚数で行数がわかるもの。

近

年のデジタル化社会の進行からは、想像もできない活字文化のあり様。私は、今でもワープロは打てないので、たとえばこの原稿も400字詰めの用紙に書いて、運動本部の職員に活字化してもらっている始末。また、本当に新聞文化の変化を痛感するのは、電車の中に座っている方で、新聞を広げて読んでいる方がほとんどないこと。大半の人が、スマホを操っているのを見て、私は時代の変化というより、自らの“時代遅れ”に唖然とするばかりだ。

自分の手に鉛筆やペンを持って字を書くことは、おそらく時を追ってさらに減っていくのだろう。

デジタル化の進行を例として、人間社会はいま恐るべきスピードで、様々な分野での構造変革が進みつつあるのはご存じの通り。わが国社会をみれば家庭の有様の変化、犯罪の知能犯化や国際化、オンライン化の進行に伴う経済社会の構造変化、男女間格差の是正、などなど。

つ

いに2年前に傘寿(80歳)を越え、同じ年の妻とともに、日ごと進む“時代遅れ”的のすさまじさに、天をあおいでばかりの自分。たとえば、ケータイ電話は持っているが、声の送受信だけしかできず、メールも送れない私。電子版による各種情報とも無縁の私。英語も苦手で、“時代遅れ”を和英辞典で引いてみると「Behind the times(ビハインド・ザ・タイムズ)」とあるのにビックリ!! 「AI(人工知能)」導入は産業革命に匹敵、とさえ言われているのに……。

時代の流れは加速する一方だろう。私はいよいよ、時代遅れに頭を抱える日々に違いない。しかし、「小さな親切」へのこだわりは、絶対に自分の良心に照らして、いわば生涯不变。皆様、どうぞよろしく。これからもご指導、お力添えを!!